

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 3 月 10 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3891500070
事業所名 (ユニット名)	グループホーム重信の郷 1階
記入者(管理者) 氏名	本田 由香
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 10 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 明るく生き生きと過ごし、その人らしい暮らしを守っていきます。笑顔で笑顔を増やしていきます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①レクリエーションについて、室内で出来る運動やゲームを充実させている。季節ごとに自分たちで作成したものを掲示して眺める楽しみが増えている。男性の入居者様にも調理に誘いし参加して頂いている。居室で過ごすことを好まれる入居者様には、個別で外気浴して頂いたり、職員との会話の時間を取るなどの工夫をした。運動の種類を増やし、取り組んでいる。外出やボランティアによる訪問などの楽しみは減ったが、自分たちで楽しめるよう工夫することにより、入居者様や職員の意欲向上につながっていると思われる。 ②避難訓練、他、地域とのつながりは殆ど取れなかった。工夫をすることが出来なかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 田園地帯の中に立地する事業所の窓からは、四季の移ろいを感じることができる。幹線道路から少し入った場所に事業所はあるため、利用者にとりやすい環境が提供されている。また、管理者を中心としたチームケアの信頼関係はすばらしく、なんでも言い合える雰囲気づくりが行われ、離職する職員も少ない。さらに、職員全員の権利意識が高く、利用者主体のケアを推進しており、居室も利用者一人ひとり個性を重視した空間づくりも行われ、今後もケアの質の向上も期待される。コロナ禍の状況も続いてきたが、事業所では面会などの制限が緩和され、家族も来訪しやすくなってきており、利用者との家族や地域との交流の再開も期待される。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人や家族、関係者から聞き取るよう努力している。	○	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族から思いや意向などの聞き取りをしている。日々の生活の中で、利用者から新たな思いなどを聞くこともあり、メモに記録を残し、職員間で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や以前の状況などを家族から聞き取り検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族、親戚、友人と話す機会があるときに話している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメント表や介護記録、ケアプランに記入している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人か家族に確認したり、他のスタッフからも情報を得るよう努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人、家族、関係者等に確認している。	/	/	○	入居時に、センター方式のアセスメントシート等を活用して、管理者等は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどの聞き取りをしている。把握してない内容も、日々の支援の中で徐々に利用者から把握できることもあり、新たな情報はメモ等に残すとともに、記録を追記しながら、職員間で共有をしている。また、定期的のアセスメントシートの内容を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の関わりの中から把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	家族、関係者から聞き取り、申し送り等で情報共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の気持ちを確認したり、家族やスタッフからの聞き取りなども行いながら、担当者会議、スタッフ会議などで検討、確認している。	/	/	○	これまでの利用者の暮らしぶり、センター方式のアセスメント表の一部を活用し、職員間で情報を共有している。アセスメントシートに、現在の課題や利用者の状況が詳しく記載されているものの、過去の利用者の人生史が個別記録に記載されている状況となっており、アセスメントシート上において、更新されていない状況が課題となっている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアプラン、アセスメント表、モニタリング表に計上し周知している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人、家族の思いに沿ったプランを作成している。	/	/	/	アセスメント情報や把握した情報をもとに、担当者会議の中で、利用者や家族、職員が意見を出し合いながら話し合い、介護計画を作成している。コロナ禍において、利用者や家族が担当者会議に参加できないこともあり、事前に、利用者毎の担当職員を中心に、意見や希望などの聞き取りをしている。また、出された意見のほか、職員の意見やアイデアを反映させた計画の作成に努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人、家族、スタッフ、協力医等と話し合っている。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人から確認できない場合は、家族に確認しながら作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	協力体制が盛り込まれていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	スタッフ会や申し送りなどで共有している。			◎	介護計画や支援内容は、モニタリング用紙を兼ねた一覧表等を作成するとともに、休憩室等に置いて、職員に計画をいつでも確認できるようにしている。また、月1回実施するスタッフ会のほか、申し送り時に、計画の目標やサービス内容などを職員間で共有をしている。さらに、短期目標に番号を振り分け、個別記録に番号の記載を行うなど、計画に沿った支援を実施するほか、モニタリング表等に日々のサービス内容のチェックや記録を残すこともできている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護記録、モニタリングに記入し確認している。			◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年に一度、見直しを行っている。			◎	入居時に、暫定の介護計画を作成し、約1か月後に計画の見直しをしている。以降は、6か月に1回計画の見直しをしている。月1回モニタリング表を活用して、利用者の現状確認を行い、状態の変化がない場合にも、計画の一部を見直すこともある。また、大きな変化が生じた場合には、更新時期を早めて計画の見直しを行い、現状に即した計画を作成している。さらに、訪問調査日には、直近の介護計画の変更を確認することもできた。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングにて確認している。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状況に変化があった時は見直しをしている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上で課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のスタッフ会、及び小ミーティングを行っている。			○	月1回スタッフ会をユニット合同で開催し、利用者の現状確認や情報共有のほか、職員間で話し合いをしている。それ以外にも適宜、その日の出勤職員で小ミーティングを実施している。また、会議に参加できなかった職員には、管理者が直接口頭で伝えるとともに、会議録を確認してもらい、職員は確認後に伝達日を記載するようになっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	普段からコミュニケーションを取り、話しやすい雰囲気心がけている。			○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	翌月のシフト表作成時に会議の予定を入れることにより、早い時期に周知し、参加しやすい体制をとっている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭、記録、申し送りノートにより申し送りしている。	◎		○	日々朝夕の申し送りを、申し送りノートを活用しながら、口頭で実施している。また、職員は出勤時に申し送りノート等を確認し、確認後にはサインを残すなど、伝達漏れなく、職員間で情報共有を行うことができている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の希望を出るだけ叶えられるよう努力している。				イベントへの参加の有無や飲み物の選択など、日常生活の中で、職員は声をかけ、利用者を選択できる機会を創出するよう努めている。また、利用者毎の担当職員を中心に、一人ひとりの好みや楽しみを把握して、言葉数が少ない利用者に対しても、本人が好きなお勧めの声をかけるなどの工夫をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自分で選択できる人にはして頂き、難しい人には二択にするなど配慮している。視線や表情なども判断している。			○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	入浴の回数、洗身洗髪回数など今までの習慣が続けられるよう援助している。生活リズムが崩れないよう注意している。				
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一人一人の好む事や楽しみの把握に努め、話題にしたり働きかけたりしている。			◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	視線を合わせ、同じ視線での会話に努め、身振り手振りでコミュニケーションを図り快不快を汲み取るよう努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声をしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	勉強会などで学び、誇りやプライバシーに配慮した関わりを心掛けている。	◎	○	◎	認知症の勉強会の中で、職員は利用者への対応方法などを学び、一人ひとりの特性に配慮しながら、尊厳を傷つけない意識したケアを実践している。時には、大きな声を出したり、不適切な言動も見られ、管理者は該当職員に指導をするほか、他の職員へも注意喚起をしている。また、職員は居室と共用部分の違いを理解し、プライバシーに配慮しながら、居室の入室時には、声かけやノックをした上で、入室することもできている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	ドアを開める、タオルを掛ける、動線を考えるなどにより配慮している。				
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックや声かけにて本人の了承を得てから入室するよう心がけている。			○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時指導やスタッフ会議などに注意喚起し、守っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	助けてもらったり教えて頂く機会を作っており、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	職員は、利用者の性格を把握するとともに、利用者同士の関係性を観察しながら、配席に考慮するなどの対応をしている。時には、言い合いなどの些細なトラブルも見られ、早期に職員が間に入ったり、別の場所に移動して、利用者の話しを聞いたりするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解しており、お願いしたり助け合ったりして頂いている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	本人の性格や認知症の状態などを鑑み、入所者同士のトラブルが発生しないよう座席や行動の工夫をしている。また、他の入居者の協力をお願いすることもある。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	様子を見ながら、必要時には間に入ったり誘導したり、環境を変えたりしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時や面会時、本人の話などから聞き取り、把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	希望があれば訪問の援助を行う。電話や手紙のやり取りの援助を行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	希望する人はほぼ毎日のように散歩や外気浴を行い、重度の方は天候や体調を見て散歩、外気浴をしている。希望があれば買い物等にも同行する。	○	○	○	コロナ禍において、外出できる機会は減少しているが、人混みを避けて、日頃から事業所周辺を散歩したり、屋外に出て外気浴をしたりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。中には、外出を嫌がる利用者もおり、職員は希望を確認しながら対応をしている。また、重度な利用者にも、車いすを使用して同様の散歩や外気浴をすることができている。さらに、玄関前などに置かれたプランターには、ネギなどの野菜が育てられ、利用者は収穫をすることもできる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	盆踊りや秋祭りには地域の人の協力を得られるが、現在はコロナ感染予防のため協力は得られていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会や日々の業務の中で学び、スタッフ間で協議している。	/	/	/	センター方式のアセスメントシート等を活用して、利用者一人ひとりのできることやできないことを把握し、職員間で共有している。また、時間がかかっても、職員は声かけをしながら、利用者自身にできることをしてもらい、見守りや待つ介護に努めている。職員は、利用者と一緒にしたり、できない部分を介助したりするなどの支援に努めている。さらに、新たに発見したできることやできないことなどをアセスメントシートに落とし込み、可能な限り利用者自身で行ってもらえるよう取り組んでいる。加えて、散歩や体操などを実施するほか、家事などの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	出来ることは、時間が掛かってもなるべく自分でして頂く。生活リハビリをすることで機能の維持、向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	スタッフが手を出さず見守り本人が出来るよう援助し、必要な場面手伝っている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	それぞれに得意なことがあることを理解し、活躍出来る様支援している。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、新聞の音読、野菜切り、食器拭き、調理の盛り付けなど、職員は声をかけて、利用者の得意なことやできる役割を担ってもらったり、出番づくりをしたりすることもできている。中には、掃除機をかけてくれる利用者もいる。また、楽しみのある生活が送れるように、好きな話題を提供したり、得意なことしてもらったり、こまめな声かけをするなど、職員は利用者を楽しみのある生活が送れるような支援に努めている。さらに、認知症の進行や高齢化に伴い、重度な利用者が増えており、できることは少なくなってきている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	些細な事でもして頂く場面を作るよう心掛けている。毎日必ずすること(家事やレク)がある。	○	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自分の着る服はなるべく自分で選んで頂いている。二者択一出でできる人にはして頂く。	/	/	/	起床時に、自分で服を選び、着替えをすることのできる利用者もいる。また、職員は声をかけて、二者択一に選択肢を絞るなどの工夫を行い、自分で着る服を選んでもらうようにしている。さらに、整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員が利用者にさりげなく声かけをするなどのフォローをしている。重度であっても、同様の支援が行われている。加えて、帽子が好きな利用者には、外気浴や散歩の際に、帽子を被って出かけられるよう支援をすることもできている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるよう支援している。	○	本人や家族などから情報得て、好みのもので整えられるよう支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択方法を変えたり、提案をしている。表情や視線で判断することもある。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	外出時などには着替えて頂き、メリハリを付けたり楽しんで頂いている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく、声の大きさや場所などにも配慮して伝え、必要時には場所を変えて整えている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	行きつけの美容室を希望されている人はお連れする。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	以前、好んでいた衣服の色や形を把握しており本人らしさを維持出来るよう支援を行っている。	/	/	◎	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	心身機能の維持、楽しみや生きがいであることを理解している。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理、盛り付け、後片づけは、出来る人にはして頂いている。誕生日や季節の行事の時にはメニューの相談を行っている。	/	/	◎	事業所では、外部業者の宅配サービスを利用し、バランスの取れた献立の食材が届き、各ユニットで利用者に調理の下ごしらえや野菜切り、食器拭きなどを手伝ってもらいながら、職員が調理や盛り付けをしている。入居時等に、利用者の好みやアレルギーを把握し、業者に伝えている。食器類は、入居時に利用者が使い慣れた物を持参して、使用することもできる。食事の際に、職員は利用者と同じ物を食べているが、コロナ禍の感染対策もあり、現在は利用者とは別々に食事を摂っている。訪問調査日にも、職員は利用者丁寧に食事のメニューの説明をしながら、見守りやサポートを行う様子を見ることができた。また、建物の構造がオープンキッチンとなっているため、重度な利用者もロビーに出て、調理の様子のほか、音や匂いを感じる事ができている。さらに、職員が味付けや調理方法などの気づきがあった場合には、職員間で話し合いをしている。加えて、イベントの際には、外部委託の宅配を止めて、好みのメニューと一緒に調理することもある。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒に行う事により出来ている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握している。	/	/	/	
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は外部業者に委託している。アレルギーや好き嫌いに応じ、代替品の準備、切り方や盛り付けの工夫などを行っている。	/	/	○	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	一人一人の状態や病状に合わせて形状の調理を行い、また、美味しく見えるような盛り付けなどの工夫をしている。最初からミキサー食にせず、様子を見て途中から変更することもある。	/	/	/	
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人用の食器が決まっており、なじみのものを使って頂いている。	/	/	◎	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナ感染予防の観点から、一緒に食べることはしていない。食事介助を行いながら、さりげない援助を行っている。	/	/	△	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音やにおいを感じて頂き、献立や調理法を伝えたりする事により、楽しみに思っ頂けるよう心がけている。	◎	/	○	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人一人の状況に応じて、必要な栄養や水分が無理なく取れるよう援助している。	/	/	/	
		j	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	定期的時間だけでなく、少しずつでも取れるよう支援している。また、必要に応じて栄養補助食品の利用、補食等もやっている。	/	/	/	
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	必要時にはスタッフ会で話し合い、改善している。残食が多いメニューについては、盛り付けや材料の見直しを行っている。	/	/	◎	
		l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	使用後は器具や食器の消毒を行い、食材の取り扱いには注意を払っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	スタッフ会や勉強会などで学び、理解している。	/	/	/	事業所では、月1回必ず全ての利用者の口腔内の状況の把握を行い、記録に残すことができています。また、加算の算定上もあり、定期的に歯科医や歯科衛生士の来訪があり、指示やアドバイスを受けて、職員は口腔ケアの重要性を理解している。さらに、毎食後に、職員は声をかけて、利用者は洗面台で口腔ケアを実施している。加えて、日々の口腔ケアの状況は、日々の担当職員が、口腔ケアチェック表を活用して、利用者の状況確認を行い、チェックすることもできている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアチェック表を使い、月に1回は必ず口腔内のチェックを行っている。また、毎回の口腔ケア時にも把握に努めている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	月に1回、歯科医や歯科衛生士からアドバイスを得て活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後、それぞれに応じた手入れが出来る様支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	見守りの後場合によっては援助している。往診の歯科医との連携が取れている。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	安易にオムツに変更せず、また日中と夜間、状態で使い分けしている。大体理解出来ている。	/	/	/	事業所として、利用者がどのような状態であっても、日中に原則トイレで排泄できるよう支援している。夜間にトイレでの排泄が困難な場合には、おむつを使用する利用者もいる。また、失禁が多くなるなどの利用者の状態に応じて、パッドやおむつなどの排泄用品の使用を職員間で話し合い、家族等に確認の上で使用している。失禁が多くなるとパッドを使用するほか、それでも失禁が多い場合におむつの使用を検討するようになるが、事業所では安易におむつを使用しないように、職員間で話し合い、こまめな声かけやトイレ誘導をするなどの支援も行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	認知症の症状が強くなったり、食欲、睡眠などにも影響がある事を理解できている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々に合わせた誘導を行っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	重度の稀とも必ずトイレに誘導して排泄して頂いている。日中と夜間帯で代えるなどの対応をしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	その都度スタッフ間で検討し取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄量や回数など、個々のリズム合わせた誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の状況や希望などに応じ、スタッフや家族とも相談しながら決めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	状態に応じ使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分、食物繊維、乳製品、運動、朝食後のトイレ誘導などを行う事により、なるべく薬に頼らないよう取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	出来るだけ希望に添えるよう調整しているが時間帯は大体決めている。入浴回数を増やしたい入居者は増やしている。習慣や湯温は好みに合わせている。	◎	/	○	事業所では、人員配置の問題もあり、入浴できる時間帯を決めているが、時間帯の中であれば、週の入浴回数や湯の温度など、利用者の希望に応じて、入浴してもらうことができています。入浴できる時間帯を午後に変更したが、職員の勤務形態もあり、午前に変更する場合もある。中には、長く入浴したい利用者もあり、入浴順をその日の最後にするなど、後の入浴を気にせず、ゆったりと入れるようにしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	焦らずゆっくり入浴できるよう配慮している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で洗えるところは洗っていただき、出来ない部分のみ援助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	チームで考え、時間や気分、声かけのタイミング、スタッフ交代など工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックや状態観察などにより行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録や申し送りなどで把握している。	/	/	/	事業所では、利用者の転倒リスクが高まるために、原則として眠前薬に頼る支援は行われていない。夜間に不眠傾向のある利用者には、日中の活動を工夫したり、寝具や足元を温めたりするなどの配慮を行い、夜間に良眠できるよう努めている。また、利用者が起きないように、夜勤の職員には、足音を極力立てずに移動するなどの配慮を徹底している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量、環境、寝具の調整、就寝前の過ごし方などに工夫をしている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動量、環境、就寝前の過ごし方などに工夫をしている。夜間はスタッフも出来るだけ静かに作業し、音や明かりに注意している。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	状況に応じ個別に対応出来ている。不眠だった人は、日中、居室で休んでいただいている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族に手紙を書く機会を作ったり、電話で話せるよう調整を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	レクに取り入れたり、電話の援助を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	こちらから勧めたり、電話中あまり近くで居ないように配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	必ず本人に渡し、本人の希望を確認し、音読したりお礼状や電話が出来る様援助している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	前もってお願いし、協力を得られている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解し、そのような場面があれば必要な支援を行っている。本人の状態に応じて対応する。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	とくし丸やその周囲の方々に協力をお願いしている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金を持っていたい人にはある程度所持して頂いている。無くしても一緒に探し解決している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時、面会時などに、本人の状態に応じて話している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納帳をつけ、2か月に一回は確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来る限り希望に添えるよう、また言いやすい関係を築くよう努力している。	◎	/	◎	コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、利用者や家族からの要望には、対応できていないものもある。可能な範囲で、買い物支援や移動図書館の利用、美容室やお墓参りへ出かけるなど、職員は利用者や家族の意向を十分に聞きながら、柔軟に応えるようにしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	入居者と一緒季節ごとに花を植え替えたり、清掃し、気持ちよく出入りしていただけるよう配慮している。	◎	○	○	訪問調査日には、玄関周りに水仙が咲いている様子のほか、ネギなどの野菜がプランターで育てられている様子が見られた。また、敷地内の雑草などもきれいに抜かれ、手入れが行き届いており、事業所には入りやすい雰囲気が感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	移動の妨げにならないよう片付けたり、季節によって壁飾りを一緒に作って飾ったりして居心地の良い空間による配慮している。	○	○	○	玄関スペースには、本日の勤務職員の写真が貼り出され、利用者や来訪者は把握できるようになっている。共用空間には、季節の飾り付けのほか、利用者や職員の作品も飾られている。訪問調査日の3月には、大きなひな壇のひな人形が飾られていた。また、掃除は行き届き、嫌な臭いなどは感じられず、清潔感がある。さらに、窓の外に見える田畑の様子から、利用者や来訪者は四季の移ろいが十分感じることができる。加えて、玄関前に置かれたツボの中で、メダカを飼育しており、エサやりを楽しみにしている利用者もいる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	出来るだけ不快な要素が排除出来る様努めている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に動きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	採光、換気、室温や湿度などにも注意を払い、居心地よく過ごせるよう注意している。季節の花などを飾るようにしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	トラブルにならないよう座席など配慮し、穏やかに過ごしていただけるよう工夫している。入居者の状態により、部屋で休めるように対応している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	なるべく自宅で使っていた物を持ってきて頂き、安心して自分の居場所と認識できるようにしている。	○		◎	居室には、ベッドやクローゼット、洗面台が設置されている。利用者は、使い慣れた物や好みの物を持ち込むことができ、冷蔵庫や仏壇、家具などを配置している。入居時には、利用者や家族を中心に、居心地の良い空間づくりをしていたが、コロナ禍もあり、家族が居室に入ることができていないため、利用者は職員と一緒に話し合いをしながら、より良い居室づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	迷わないよう目印をつけている。			○	居室やトイレなどの大きめの目印を作成し、見やすい高さに貼るなど、利用者に認識しやすいようにしている。中には、居室を迷う利用者もあり、居室の入り口には、本人の似顔絵や写真が貼られている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	危険なもの意外は、いつでも手に取れるよう置かれている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかける出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	理解し、日中は鍵を掛けていない。離脱の可能性がある入居者の居場所確認を小まめに行う。	◎	◎	◎	職員は研修等を通して、鍵をかけることの弊害を理解している。日中には、玄関の施錠をしておらず、夜間のみ防犯のために玄関の施錠をしている。中には、外出願望のある利用者もあり、職員は利用者のいる場所に目を配るとともに、一緒に屋外に出て、付き添って散歩をするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	今のところ施錠を望まれる家族は居ない。入所前の説明でも施錠しない事については説明し、理解を得ている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	ファイルに整理し、把握できている。変更があれば申し送りノートなどで伝達している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	介護記録や業務日誌に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	協力医、訪問看護師等と気軽に相談できる関係が出来ている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時や必要時に希望を確認して対応している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	相談しながら対応している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診時には必ず行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	認知症のため、環境の変化が与えるストレスや本人の性格など情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	普段の生活状況の情報共有に努め、治療や退院がスムーズに出来るよう協力している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週1回の定期、臨時の訪問時に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間連絡が取れる体制となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態に変化があったときには、直ちに相談や治療が受けられる体制となっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	申し送りノート、薬剤情報にて把握し、家族や医療機関に情報提供している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬の管理を行い、指示通り服薬でき誤嚥や飲み忘れを防ぐよう取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	特に薬の変更や新たな処方があったときには注意している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	本人や家族の意向を確認しながら行っている。				事業所では、「ひとり介護指針」「重度化した場合に係る指針」を整備し、入居時に、利用者や家族等に対応できることなどを説明している。重度化や終末期には、入院や他の施設へ転院を希望される家族等が多かったが、直近で、1人の看取り介護を経験している。また、利用者の状態に応じて、家族等とかかりつけ医、訪問看護、職員を交えて話し合い、支援方針を共有して連携を図りながら、チーム体制で看取り介護を実施している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人、家族と話し合い、かかりつけ医、訪問看護師、スタッフとの話し合いをもって方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	スタッフの不安な気持ちを傾聴し、力量を確認した上で、支援について見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	出来ること、できない事の説明を行い、理解を得られるよう努力している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族やかかりつけ医等と連携を取りながら支援していく体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	随時電話やメール、対面で行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	スタッフ会議にて定期的に学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	予防や対応の取り決めはあるが訓練は行っていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	東温市、協力医、訪問看護ステーション、保健所、テレビ、ネットなどで入手している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	スタッフ、入所者、来訪者ともに徹底出来ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	施設での様子を出来るだけお伝えし、一緒に協力していただけるようお願いしている。	/	/	/	コロナ禍以前は、事業所の行事に家族の参加を呼びかけて、動物園などの外出事に出かけたり、餅つきなどに一緒に参加協力したりしてもらうこともできていたが、コロナ禍において、家族の参加できる行事の開催は自粛をしている。定期的に発行する事業所便りの送付に合わせて、利用者毎の担当職員が利用者の近況等を記載した手紙を家族に送付している。利用者の状態に大きな変化が見られた場合には、家族に電話やメールでお知らせするほか、家族が来訪した際には、担当職員等は時間を取って、ゆっくりと話しをする機会を設けている。また、事業所の運営上の事柄や出来事を、運営推進会議の会議録等を送付して家族等に伝えているが、コロナ禍で来訪する機会が少ないこともあり、十分に伝わっていない状況となっている。3月の訪問調査日の時点では、面会制限が解除されており、家族との面会を自由に行っているが、居室の訪室や外泊などの対応までは行われていない。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ感染予防の観点から現在はいっていない。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	年4回の重信の郷だより、毎月のお手紙、メール、面談、電話にて状況をお伝えしている。知りたい事や不安については来訪時や電話にて相談に応じている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	来所時や電話で認知症の症状、その対応などについて適宜アドバイスを行っている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	重信の郷だよりにて時々報告している。	○	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクを説明し、拘束、抑制をしない暮らしをすることの理解を得るようにしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	気楽に意見や相談が伝えられるよう、訪問時や電話にてこちらから積極的に声をかけているが、訪室や宿泊は出来ていない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	施設見学、入居時に説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	施設から退居をお願いした事例はないが、あれば説明を行い、納得のいく退去先に移れるよう支援する。病状により対応が困難になった時は退居先の提案や調整を行っている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	自治会に入り理解を求める機会を作っている。	/	○	/	コロナ禍以前は、地域の盆踊り大会や秋祭りの際に、利用者が参加できるスペースを確保してもらって参加したり、歌や踊りのボランティアの受け入れをしたりするなど、地域住民と交流を図ることもできていた。コロナ禍において、地域住民と交流できる機会は減っているものの、事業所周辺の散歩時に、あいさつや会話を交わすなどの交流をしている。事業所では、多くの制限も解除され、コロナ禍の収束後には、地域住民との交流が再開されることも期待される。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域の行事への参加や、散歩時の声かけなど積極的に行っている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	時々近所の人たちからの声掛けや見守りが見られている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	訪問は見られない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りももらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近所の人から気軽に声を掛けて頂いているが立ち寄りではない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	日常的には行っていない。ボランティアはコロナウイルス流行時以外は定期的に来ていただいていた。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	公民館、消防、警察、美容室、介護ネット東温などで理解を頂けるよう働きかけている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナ感染拡大時期により参加出来ていない。	○	/	△	コロナ禍において、運営推進会議は、職員と利用者のみで会議を開催している。時には、地域の自治会長の来訪もあり、事業所や利用者の様子を伝えている。また、話し合われた会議録を、会議の参加メンバーや家族に送付しているが、事業所の取り組み状況や出された意見の結果などの記載が少ない状況となっている。外部からの参加メンバーが参加した集合形式の会議が行われない場合にも、参加メンバーから意見や要望を聞き、サービスの質の向上に反映するなど、有意義な会議となることを期待したい。今後は、会議録の内容に継続性を持ちながら、事業所の運営においても、ステップアップの可視化が図られることも期待される。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	出来ていない。	/	-	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	2ヶ月に1回、月末の木曜日13:30～と決め、予定が立ちやすいよう配慮していたが、今年度は出来ていない。	/	-	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	職員で話し合って理念を作り、廊下に掲示して業務に当たっている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	来訪時に見えるよう掲示している。	/	△	×	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	計画的に研修を受けられるよう、シフト調整や費用の負担などの協力体制を取っている。	/	/	/	法人は大きく、代表者の事業所への来訪はないが、月に数回、管理者会や部門会、ブロック会などが開催され、管理者等は出席し、職員から出された意見を伝えることもできる。また、日常的に管理者は職員に声をかけ、意見を聞くことができ、何でも言い合える雰囲気づくりがあり、職員の離職率も低い。さらに、職員の間関係性のほか、急いで対応すべき相談にも、管理者はその都度対応することもできている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スタッフ会などでレベルに合った学習が出来るよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	スタッフの個別の評価を行い賞与や給与に反映させている。労働時間は希望に沿えるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	県や市の交流会や勉強会に参加できる体制をとっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	相談に乗って頂く体制がある。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	研修会を行い理解できている。	/	/	○	スタッフ会の後に、全ての職員が参加した研修会を開催し、虐待や不適切なケアの防止などを学び、職員は理解をしている。また、身体拘束廃止委員会を開催し、職員間で話し合いをしている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、管理者は該当職員に指導をするほか、他の職員へも注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	スタッフ会だけでなく、日常的に話し合いの場を作っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に注意観察、声掛けし、必要時には面接などを行っている。時々ストレスチェックを行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束廃止委員会、スタッフ会等にて理解している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束廃止委員会、スタッフ会議にて話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	話し合い、理解を得るようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	理解でき相談に乗れる体制がある。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	担当弁護士との連携体制が取れている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し周知し、時々勉強会を行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	年2回の避難訓練、スタッフ会議などで身につけている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	スタッフ会議での報告、回覧、申し送りなどで再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	随時、及びスタッフ会時に検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し周知し、対応を検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに解決できるよう対応し、必要時には市町の相談、報告する体制を作っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに回答し、誠意を持って話し合い、納得していただけるよう努力している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会や電話などに個別に開ける場面を作るようにしている。相談窓口をお伝えしている。	◎		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族には、面会時や電話連絡時を活用して、職員は声をかけて、意見や要望の聞くよう努めている。また、職員の意見や要望は、管理者を中心に聞く仕組みづくりができており、職員は管理者を信頼しながら、何でも言い合える環境が整っている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	必要と思われるときには行う。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	管理者を通じて情報を得ている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的及び必要と思われるときに検討している。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	1年に1回取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、管理者を中心に作成をしている。また、サービスの評価結果は、ユニット会の中で職員に報告を行い、目標達成に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議の参加メンバーや家族にも、評価結果を報告しているが、コロナ禍において、目標達成への取り組みの状況のモニターの協力までには至っていない。さらに、運営推進会議の会議録は、玄関に自由に閲覧できるように掲示をしている。コロナ禍の収束後には、家族や会議の参加メンバーに、目標達成の取り組み状況などのモニターの協力を呼びかけて意見をもらうなど、さらなるサービスの質の向上に活かすことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標を作成し、達成にむけて取り組んでいく。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	出来ていない。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	事業所として、各種防災マニュアルを整備し、職員に周知をしている。年2回以上、法定の避難訓練を実施している。コロナ禍において、消防署との連携のほか、地域住民との合同訓練は行われていない。地域住民との協力体制は築かれており、コロナ禍の収束後には、地域住民や運営推進会議の参加メンバー等の参加協力を得た合同訓練ができることも期待される。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の避難訓練時に行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	管理者が行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署からの指導や、電話などで協力をお願いしている。	△	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行えていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行えていない。	/	/	/	相談事業所ではないために、積極的な広報啓発までは行われていないが、実際に地域の高齢者等から相談が寄せられた場合には、快く適宜対応をしている。コロナ禍もあり、地域の活動やイベントにはほとんど協力することができていない。また、市行政や地域包括支援センターとして、認知症高齢者等の行方不明者の捜索訓練があり、協力もしている。さらに、市行政や地域包括支援センター等が主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	電話での問い合わせや、施設見学時に行っている。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行えていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	依頼なく、行えていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントには参加している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 3 月 10 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3891500070
事業所名 (ユニット名)	グループホーム重信の郷 2階
記入者(管理者) 氏名	岡崎 尚之
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 10 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 明るく生き生きと過ごし、その人らしい暮らしを守っていきます。笑顔で笑顔を増やしていきます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①レクリエーションについて、室内で出来る運動やゲームを充実させている。季節ごとに自分たちで作成したものを掲示して眺める楽しみが増えている。男性の入居者様にも調理にお誘いし参加して頂いている。居室で過ごすことを好まれる入居者様には、個別で外気浴して頂いたり、職員との会話の時間を取るなどの工夫をした。運動の種類を増やし、取り組んでいる。外出やボランティアによる訪問などの楽しみは減ったが、自分たちで楽しめるよう工夫することにより、入居者様や職員の意欲向上につながっていると思われる。 ②避難訓練、他、地域とのつながりは殆ど取れなかった。工夫をすることが出来なかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 田園地帯の中に立地する事業所の窓からは、四季の移ろいを感じることができる。幹線道路から少し入った場所に事業所はあるため、利用者にとりやすい環境が提供されている。また、管理者を中心としたチームケアの信頼関係はすばらしく、なんでも言い合える雰囲気づくりが行われ、離職する職員も少ない。さらに、職員全員の権利意識が高く、利用者主体のケアを推進しており、居室も利用者一人ひとり個性を重視した空間づくりも行われ、今後もケアの質の向上も期待される。コロナ禍の状況も続いてきたが、事業所では面会などの制限が緩和され、家族も来訪しやすくなってきており、利用者との家族や地域との交流の再開も期待される。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人や家族、関係者から聞き取るようにしている。	○	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族から思いや意向などの聞き取りをしている。日々の生活の中で、利用者から新たな思いなどを聞くこともあり、メモに記録を残し、職員間で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族から聞き取り検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族、親戚、友人と話す機会があるときに話している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメント表や介護記録、ケアプランに記入している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人が家族に確認したり、他のスタッフからも情報を得るよう努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	本人、家族、関係者等に確認している。	/	/	○	入居時に、センター方式のアセスメントシート等を活用して、管理者等は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどの聞き取りをしている。把握してない内容も、日々の支援の中で徐々に利用者から把握できることもあり、新たな情報はメモ等に残すとともに、記録を追い追いつきながら、職員間で共有をしている。また、定期的のアセスメントシートの内容を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の関わりの中から把握するようにしている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	家族、関係者から聞き取り、申し送り等で情報共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の気持ちを確認したり、家族やスタッフからの聞き取りなども行いながら、担当者会議、スタッフ会議などで検討、確認している。	/	/	○	これまでの利用者の暮らしぶりは、センター方式のアセスメント表の一部を活用し、職員間で情報を共有している。アセスメントシートに、現在の課題や利用者の状況が詳しく記載されているものの、過去の利用者の人生史が個別記録に記載されている状況となっており、アセスメントシート上において、更新されていない状況が課題となっている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアプラン、アセスメント表、モニタリング表に計上し周知している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人、家族の思いに沿ったプランを作成している。	/	/	/	アセスメント情報や把握した情報をもとに、担当者会議の中で、利用者や家族、職員が意見を出し合いながら話し合い、介護計画を作成している。コロナ禍において、利用者や家族が担当者会議に参加できないこともあり、事前に、利用者毎の担当職員を中心に、意見や希望などの聞き取りをしている。また、出された意見のほか、職員の意見やアイデアを反映させた計画の作成に努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族、スタッフ、協力医等と話し合っている。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人から確認できない場合は、家族に確認しながら作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	協力体制が盛り込まれていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	スタッフ会や申し送りなどで共有している。			◎	介護計画や支援内容は、モニタリング用紙を兼ねた一覧表等を作成するとともに、休憩室等に置いて、職員に計画をいつでも確認できるようにしている。また、月1回実施するスタッフ会のほか、申し送り時に、計画の目標やサービス内容などを職員間で共有をしている。さらに、短期目標に番号を振り分け、個別記録に番号の記載を行うなど、計画に沿った支援を実施するほか、モニタリング表等に日々のサービス内容のチェックや記録を残すこともできている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護記録、モニタリングに記入し確認している。			◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年に一度、見直しを行っている。			◎	入居時に、暫定の介護計画を作成し、約1か月後に計画の見直しをしている。以降は、6か月に1回計画の見直しをしている。月1回モニタリング表を活用して、利用者の現状確認を行い、状態の変化がない場合にも、計画の一部を見直すこともある。また、大きな変化が生じた場合には、更新時期を早めて計画の見直しを行い、現状に即した計画を作成している。さらに、訪問調査日には、直近の介護計画の変更を確認することもできた。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングにて確認している。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状況に変化があった時は見直しをしている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上で課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のスタッフ会、及び小ミーティングを行っている。			○	月1回スタッフ会をユニット合同で開催し、利用者の現状確認や情報共有のほか、職員間で話し合いをしている。それ以外にも適宜、その日の出勤職員で小ミーティングを実施している。また、会議に参加できなかった職員には、管理者が直接口頭で伝えるとともに、会議録を確認してもらい、職員は確認後に伝達日を記載するようになっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	普段からコミュニケーションを取り、話しやすい雰囲気心がけている。			○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	翌月のシフト表作成時に会議の予定を入れることにより、早い時期に周知し、参加しやすい体制をとっている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭、記録、申し送りノートにより申し送りしている。		◎	○	日々朝夕の申し送りを、申し送りノートを活用しながら、口頭で実施している。また、職員は出勤時に申し送りノート等を確認し、確認後にはサインを残すなど、伝達漏れなく、職員間で情報共有を行うことができている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の希望を出るだけ叶えられるよう努力している。			○	イベントへの参加の有無や飲み物の選択など、日常生活の中で、職員は声をかけ、利用者を選択できる機会を創出するよう努めている。また、利用者毎の担当職員を中心に、一人ひとりの好みや楽しみを把握して、言葉数が少ない利用者に対しても、本人が好きなことを勧める声かけをするなどの工夫をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自分で選択できる人にはして頂き、難しい方には視線や表情なども判断している。			○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	今までの習慣が続けられるようできる限り援助している。生活リズムが崩れないよう注意している。			○	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	出来る事や得意なことを行えるよう機会を作っている。			◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	視線を合わせ、同じ視線での会話に努め、身振り手振りでコミュニケーションを図り快不快を汲み取るよう努めている。			○	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	勉強会などで学び、誇りやプライバシーに配慮した関わりを心掛けている。		◎	○	認知症の勉強会の中で、職員は利用者への対応方法などを学び、一人ひとりの特性に配慮しながら、尊厳を傷つけない意識したケアを実践している。時には、大きな声を出したり、不適切な言動も見られ、管理者は該当職員に指導をするほか、他の職員へも注意喚起をしている。また、職員は居室と共用部分の違いを理解し、プライバシーに配慮しながら、居室の入室時には、声かけやノックをした上で、入室することもできている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	ドアを開めたりして周りの視野から入らないようにしている。			○	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックや声かけにて本人の了承を得てから入室するよう心がけている。			○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時指導やスタッフ会議などに注意喚起し、守っている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家政などで教えて頂く機会を作っており、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	職員は、利用者の性格を把握するとともに、利用者同士の関係性を観察しながら、配席に考慮するなどの対応をしている。時には、言い合いなどの些細なトラブルも見られ、早期に職員が間に入ったり、別の場所に移動して、利用者の話しを聞いたりするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解しており、お願いしたり助け合ったりして頂いている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	本人の性格や認知症の状態などを鑑み、入所者同士のトラブルが発生しないよう座席や行動の工夫をしている。また、他の入居者の協力をお願いすることもある。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	様子を見ながら、必要時には間に入ったり誘導したり、環境を変えたりしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時や面会時、本人の話などから聞き取り、把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	希望があれば訪問の援助を行う。電話や手紙のやり取りの援助を行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	重度の方は天候や体調を見て外気浴をしている。希望により周辺の散歩をしている。	○	○	○	コロナ禍において、外出できる機会は減少しているが、人混みを避けて、日頃から事業所周辺を散歩したり、屋外に出て外気浴をしたりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。中には、外出を嫌がる利用者もおり、職員は希望を確認しながら対応をしている。また、重度な利用者にも、車いすを使用して同様の散歩や外気浴をすることができている。さらに、玄関前などに置かれたプランターには、ネギなどの野菜が育てられ、利用者は収穫をすることもできる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	盆踊りや秋祭りには地域の人の協力を得られるが、現在はコロナ感染予防のため協力は得られていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会や日々の業務の中で学び、スタッフ間で協議している。	/	/	/	センター方式のアセスメントシート等を活用して、利用者一人ひとりのできることやできないことを把握し、職員間で共有している。また、時間がかかっても、職員は声かけをしながら、利用者自身にできることをしてもらい、見守りや待つ介護に努めている。職員は、利用者と一緒にしたり、できない部分を介助したりするなどの支援に努めている。さらに、新たに発見したできることやできないことなどをアセスメントシートに落とし込み、可能な限り利用者自身で行ってもらえるよう取り組んでいる。加えて、散歩や体操などを実施するほか、家事などの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	出来ることは、時間が掛かってもなるべく自分でして頂く。生活リハビリをすることで機能の維持、向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	スタッフが手を出さず見守り本人が出来るよう援助し、必要な場面手伝っている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	それぞれに得意なことがあることを理解し、活躍出来る様支援している。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、新聞の音読、野菜切り、食器拭き、調理の盛り付けなど、職員は声をかけて、利用者の得意なことやできる役割を担ってもらったり、出番づくりをしたりすることもできている。中には、掃除機をかけてくれる利用者もいる。また、楽しみのある生活が送れるように、好きな話題を提供したり、得意なことをしてもらったり、こまめな声かけをするなど、職員は利用者を楽しみのある生活が送れるような支援に努めている。さらに、認知症の進行や高齢化に伴い、重度な利用者が増えており、できることは少なくなってきている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	些細な事でもして頂く場面を作るよう心掛けている。毎日必ずすること(家事やレク)がある。	○	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自分の着る服はなるべく自分で選んで頂いている。二者択一出でできる人にはして頂く。	/	/	/	起床時に、自分で服を選び、着替えをすることのできる利用者もいる。また、職員は声をかけて、二者択一に選択肢を絞るなどの工夫を行い、自分で着る服を選んでもらうようにしている。さらに、整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員が利用者にさりげなく声かけをするなどのフォローをしている。重度であっても、同様の支援が行われている。加えて、帽子が好きな利用者には、外気浴や散歩の際に、帽子を被って出かけられるよう支援をすることもできている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるよう支援している。	○	本人や家族などから情報得て、好みのもので整えられるよう支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択方法を変えたり、提案をしている。表情や視線で判断することもある。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	外出時などには着替えて頂き、メリハリを付けた楽しんで頂いている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく、声の大きさや場所などにも配慮して伝え、必要時には場所を変えて整えている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	行きつけの美容室を希望されている人は現時点ではない。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	以前、好んでいた衣服の色や形を把握しており本人らしさを維持出来るよう支援を行っている。	/	/	◎	
		h	職員の着る服は、清潔さを保つよう洗濯機で洗っている。	○	清潔さを保つよう洗濯機で洗っている。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	心身機能の維持、楽しみや生きがいであることを理解している。	/	/	/	事業所では、外部業者の宅配サービスを利用し、バランスの取れた献立の食材が届き、各ユニットで利用者に調理の下ごしらえや野菜切り、食器拭きなどを手伝ってもらいながら、職員が調理や盛り付けをしている。入居時等に、利用者の好みやアレルギーを把握し、業者に伝えている。食器類は、入居時に利用者が使い慣れた物を持参して、使用することもできる。食事の際に、職員は利用者と同じ物を食べているが、コロナ禍の感染対策もあり、現在は利用者とは別々に食事を摂っている。訪問調査日にも、職員は利用者丁寧に食事のメニューの説明をしながら、見守りやサポートを行う様子を見ることができた。また、建物の構造がオープンキッチンとなっているため、重度な利用者もロビーに出て、調理の様子のほか、音や匂いを感じる事ができている。さらに、職員が味付けや調理方法などの気づきがあった場合には、職員間で話し合いをしている。加えて、イベントの際には、外部委託の宅配を止めて、好みのメニューと一緒に調理することもある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理、盛り付け、後片づけは、出来る人にはして頂いている。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒に行う事により出来ている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は外部業者に委託している。アレルギーや好き嫌いに応じ、代替品の準備、切り方や盛り付けの工夫などを行っている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	一人一人の状態や病状に合わせて形状の調理を行い、また、美味しく見えるような盛り付けなどの工夫をしている。最初からミキサー食にせず、様子を見て途中から変更することもある。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人用のものがあれば使用している。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナ感染予防の観点から、一緒に食べることはしていない。食事介助を行いながら、さりげない援助を行っている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音やにおいを感じて頂き、献立や調理法を伝えたりする事により、楽しみに思ってもらえるよう心がけている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人一人の状況に応じて、必要な栄養や水分が無理なく取れるよう援助している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	定期的時間だけでなく、少しずつでも取れるよう支援している。また、必要に応じて栄養補助食品の利用、補食等もやっている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	必要時にはスタッフ会で話し合い、改善している。残食が多いメニューについては、盛り付けや材料の見直しを行っている。	/	/	◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	使用後は器具や食器の消毒を行い、食材の取り扱いには注意を払っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	スタッフ会や勉強会などで学び、理解している。	/	/	/	事業所では、月1回必ず全ての利用者の口腔内の状況の把握を行い、記録に残すことができています。また、加算の算定上もあり、定期的に歯科医や歯科衛生士の来訪があり、指示やアドバイスを受けて、職員は口腔ケアの重要性を理解している。さらに、毎食後に、職員は声をかけて、利用者は洗面台で口腔ケアを実施している。加えて、日々の口腔ケアの状況は、日々の担当職員が、口腔ケアチェック表を活用して、利用者の状況確認を行い、チェックすることもできている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアチェック表を使い、月に1回は必ず口腔内のチェックを行っている。また、毎回の口腔ケア時にも把握に努めている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	月に1回、歯科医や歯科衛生士からアドバイスを心得て活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後、それぞれに応じた手入れが出来る様支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	見守りの後場合によっては援助している。往診の歯科医との連携が取れている。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	安易にオムツに変更せず、また日中と夜間、状態で使い分けしている。大体理解出来ている。	/	/	/	事業所として、利用者がどのような状態であっても、日中に原則トイレで排泄できるよう支援している。夜間にトイレでの排泄が困難な場合には、おむつを使用する利用者もいる。また、失禁が多くなるなどの利用者の状態に応じて、パッドやおむつなどの排泄用品の使用を職員間で話し合い、家族等に確認の上で使用している。失禁が多くなるとパッドを使用するほか、それでも失禁が多い場合におむつの使用を検討するようになるが、事業所では安易におむつを使用しないように、職員間で話し合い、こまめな声かけやトイレ誘導をするなどの支援も行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	認知症の症状が強くなったり、食欲、睡眠などにも影響がある事を理解できている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々に合わせた誘導を行っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	重度の稀とも必ずトイレに誘導して排泄して頂いている。日中と夜間帯で代えるなどの対応をしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	その都度スタッフ間で検討し取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄量や回数など、個々のリズム合わせた誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の状況や希望などに応じ、スタッフや家族とも相談しながら決めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	状態に応じ使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分、食物繊維、乳製品、運動、朝食後のトイレ誘導などを行う事により、なるべく薬に頼らないよう取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	出来るだけ希望に添えるよう調整しているが時間帯は大体決めている。	◎	/	○	事業所では、人員配置の問題もあり、入浴できる時間帯を決めているが、時間帯の中であれば、週の入浴回数や湯の温度など、利用者の希望に応じて、入浴してもらうことができています。入浴できる時間帯を午後に変更したが、職員の勤務形態もあり、午前に変更する場合もある。中には、長く入浴したい利用者もあり、入浴順をその日の最後にするなど、後の入浴を気にせず、ゆったりと入れるようにしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだり気分が入浴できるよう支援している。	○	焦らずゆっくり入浴できるよう配慮している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で洗えるところは洗っていただき、出来ない部分のみ援助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強ひせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	チームで考え、時間や気分、声かけのタイミング、スタッフ交代など工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックや状態観察などにより行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録や申し送りなどで把握している。	/	/	/	事業所では、利用者の転倒リスクが高まるために、原則として眠前薬に頼る支援は行われていない。夜間に不眠傾向のある利用者には、日中の活動を工夫したり、寝具や足元を温めたりするなどの配慮を行い、夜間に良眠できるよう努めている。また、利用者が起きないように、夜勤の職員には、足音を極力立てずに移動するなどの配慮を徹底している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量、環境、寝具の調整、就寝前の過ごし方などに工夫をしている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動量、環境、就寝前の過ごし方などに工夫をしている。夜間はスタッフも出来るだけ静かに作業し、音や明かりに注意している。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	状況に応じ個別に対応出来ている。不眠だった人は、日中、居室で休んでいただいている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば電話が出来る体制は整えている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話の援助を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	こちらから勧めたり、電話中あまり近くで居ないように配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	必ず本人に渡し、本人の希望を確認し、音読したりお礼状や電話が出来る様援助している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	前もってお願いし、協力を得られている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	所持したい思いを尊重し、本人の状態や場面にに応じて対応する。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	移動スーパーが近くに来ているが、利用はない。希望があれば買い物できる体制は出来ている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金を持っていたい人にはある程度所持して頂いている。無くしても一緒に探し解決している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時、面会時などに、本人の状態に応じて話している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納帳をつけ、2か月に一回は確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来る限り希望に添えるよう、また言いやすい関係を築くよう努力している。	◎	/	◎	コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、利用者や家族からの要望には、対応できていないものもある。可能な範囲で、買い物支援や移動図書館の利用、美容室やお墓参りへ出かけるなど、職員は利用者や家族の意向を十分に聞きながら、柔軟に応えるようにしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	入居者と一緒季節ごとに花を植え替えたり、清掃し、気持ちよく出入りしていただけるよう配慮している。	◎	○	○	訪問調査日には、玄関周りに水仙が咲いている様子のほか、ネギなどの野菜がプランターで育てられている様子が見られた。また、敷地内の雑草などもきれいに抜かれ、手入れが行き届いており、事業所には入りやすい雰囲気が感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	移動の妨げにならないよう片付けたり、季節によって壁飾りを一緒に作って飾ったりして居心地の良い空間による配慮している。	○	○	○	玄関スペースには、本日の勤務職員の写真が貼り出され、利用者や来訪者は把握できるようになっている。共用空間には、季節の飾り付けのほか、利用者や職員の作品も飾られている。訪問調査日の3月には、大きなひな壇のひな人形が飾られていた。また、掃除は行き届き、嫌な臭いなどは感じられず、清潔感がある。さらに、窓の外に見える田畑の様子から、利用者や来訪者は四季の移ろいが十分感じることができる。加えて、玄関前に置かれたツボの中で、メダカを飼育しており、エサやりを楽しみにしている利用者もいる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	出来るだけ不快な要素が排除出来る様努めている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に動きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	採光、換気、室温や湿度などにも注意を払い、居心地よく過ごせるよう注意している。季節の花などを飾るようにしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	トラブルにならないよう座席など配慮し、穏やかに過ごしていただけるよう工夫している。入居者の状態により、部屋で休めるように対応している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	なるべく自宅で使っていた物を持ってきて頂き、安心して自分の居場所と認識できるようにしている。	○		◎	居室には、ベッドやクローゼット、洗面台が設置されている。利用者は、使い慣れた物や好みの物を持ち込むことができ、冷蔵庫や仏壇、家具などを配置している。入居時には、利用者や家族を中心に、居心地の良い空間づくりをしていたが、コロナ禍もあり、家族が居室に入ることができていないため、利用者は職員と一緒に話し合いをしながら、より良い居室づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	迷わないよう目印をつけている。			○	居室やトイレなどの大きめの目印を作成し、見やすい高さに貼るなど、利用者に認識しやすいようにしている。中には、居室を迷う利用者もあり、居室の入り口には、本人の似顔絵や写真が貼られている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	危険なもの意外は、いつでも手に取れるよう置かれている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかける出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	理解し、日中は鍵を掛けていない。離脱の可能性がある入居者の居場所確認を小まめに行う。	◎	◎	◎	職員は研修等を通して、鍵をかけることの弊害を理解している。日中には、玄関の施錠をしておらず、夜間のみ防犯のために玄関の施錠をしている。中には、外出願望のある利用者もあり、職員は利用者のいる場所に目を配るとともに、一緒に屋外に出て、付き添って散歩をするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	今のところ施錠を望まれる家族は居ない。入所前の説明でも施錠しない事については説明し、理解を得ている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	ファイルに整理し、把握できている。変更があれば申し送りノートなどで伝達している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	介護記録や業務日誌に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	協力医、訪問看護師等と気軽に相談できる関係が出来ている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時や必要時に希望を確認して対応している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	相談しながら対応している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診時には必ず行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	認知症のため、環境の変化が与えるストレスや本人の性格など情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	普段の生活状況の情報共有に努め、治療や退院がスムーズに出来るよう協力している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週1回の定期、臨時の訪問時に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間連絡が取れる体制となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態に変化があったときには、直ちに相談や治療が受けられる体制となっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	申し送りノート、薬剤情報にて把握し、家族や医療機関に情報提供している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬の管理を行い、指示通り服薬でき誤嚥や飲み忘れを防ぐよう取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	特に薬の変更や新たな処方があったときには注意している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	本人や家族の意向を確認しながら行っている。				事業所では、「ひとり介護指針」「重度化した場合に係る指針」を整備し、入居時に、利用者や家族等に対応できることなどを説明している。重度化や終末期には、入院や他の施設へ転院を希望される家族等が多かったが、直近で、1人の看取り介護を経験している。また、利用者の状態に応じて、家族等とかかりつけ医、訪問看護、職員を交えて話し合い、支援方針を共有して連携を図りながら、チーム体制で看取り介護を実施している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人、家族と話し合い、かかりつけ医、訪問看護師、スタッフとの話し合いをもって方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	スタッフの不安な気持ちを傾聴し、力量を確認した上で、支援について見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	出来ること、できない事の説明を行い、理解を得られるよう努力している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族やかかりつけ医等と連携を取りながら支援していく体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	随時電話やメール、対面で行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	スタッフ会議にて定期的に学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	予防や対応の取り決めはあるが訓練は行っていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	東温市、協力医、訪問看護ステーション、保健所、テレビ、ネットなどで入手している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	スタッフ、入所者、来訪者ともに徹底出来ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	施設での様子を出来るだけお伝えし、一緒に協力していただけるようお願いしている。				コロナ禍以前は、事業所の行事に家族の参加を呼びかけて、動物園などの外出事に出かけたり、餅つきなどに一緒に参加協力したりしてもらうこともできていたが、コロナ禍において、家族の参加できる行事の開催は自粛をしている。定期的に発行する事業所便りの送付に合わせて、利用者毎の担当職員が利用者の近況等を記載した手紙を家族に送付している。利用者の状態に大きな変化が見られた場合には、家族に電話やメールでお知らせするほか、家族が来訪した際には、担当職員等は時間を取って、ゆっくりと話しをする機会を設けている。また、事業所の運営上の事柄や出来事を、運営推進会議の会議録等を送付して家族等に伝えているが、コロナ禍で来訪する機会が少ないこともあり、十分に伝わっていない状況となっている。3月の訪問調査日の時点では、面会制限が解除されており、家族との面会を自由に行っているが、居室の訪室や外泊などの対応までは行われていない。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ感染予防の観点から現在はい行っていない。	○		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	年4回の重信の郷だより、毎月のお手紙、メール、面談、電話にて状況をお伝えしている。知りたい事や不安については来訪時や電話にて相談に応じている。	◎		○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	来所時や電話で認知症の症状、その対応などについて適宜アドバイスを行っている。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	重信の郷だよりにて時々報告している。			○		△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクを説明し、拘束、抑制をしない暮らしをすることの理解を得るようにしている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	気楽に意見や相談が伝えられるよう、訪問時や電話にてこちらから積極的に声をかけているが、訪室や宿泊は出来ていない。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	施設見学、入居時に説明している。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	施設から退居をお願いした事例はないが、あれば説明を行い、納得のいく退居先に移れるよう支援する。病状により対応が困難になった時は退居先の提案や調整を行っている。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	自治会に入り理解を求める機会を作っている。			○	コロナ禍以前は、地域の盆踊り大会や秋祭りの際に、利用者が参加できるスペースを確保してもらって参加したり、歌や踊りのボランティアの受け入れをしたりするなど、地域住民と交流を図ることもできていた。コロナ禍において、地域住民と交流できる機会は減っているものの、事業所周辺の散歩時に、あいさつや会話を交わすなどの交流をしている。事業所では、多くの制限も解除され、コロナ禍の収束後には、地域住民との交流が再開されることも期待される。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域の行事への参加や、散歩時の声かけなど積極的に行っている。			×		○
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	時々近所の人たちからの声掛けや見守りが見られている。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	訪問は見られない。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りももらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近所の人から気軽に声を掛けて頂いているが立ち寄りではない。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	日常的には行っていない。ボランティアはコロナウイルス流行時以外は定期的に来ていただいていた。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	公民館、消防、警察、美容室、介護ネット東温などで理解を頂けるよう働きかけている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナ感染拡大時期により参加出来ていない。	○	/	△	コロナ禍において、運営推進会議は、職員と利用者のみで会議を開催している。時には、地域の自治会長の来訪もあり、事業所や利用者の様子を伝えている。また、話し合われた会議録を、会議の参加メンバーや家族に送付しているが、事業所の取り組み状況や出された意見の結果などの記載が少ない状況となっている。外部からの参加メンバーが参加した集合形式の会議が行われない場合にも、参加メンバーから意見や要望を聞き、サービスの質の向上に反映するなど、有意義な会議となることを期待したい。今後は、会議録の内容に継続性を持ちながら、事業所の運営においても、ステップアップの可視化が図られることも期待される。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	出来ていない。	/	-	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	2ヶ月に1回、月末の木曜日13:30～と決め、予定が立ちやすいよう配慮していたが、今年度は出来ていない。	/	-	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	職員で話し合って理念を作り、廊下に掲示して業務に当たっている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	来訪時に見えるよう掲示している。	/	△	×	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	計画的に研修を受けられるよう、シフト調整や費用の負担などの協力体制を取っている。	/	/	/	法人は大きく、代表者の事業所への来訪はないが、月に数回、管理者会や部門会、ブロック会などが開催され、管理者等は出席し、職員から出された意見を伝えることもできる。また、日常的に管理者は職員に声をかけ、意見を聞くことができ、何でも言い合える雰囲気づくりがあり、職員の離職率も低い。さらに、職員の間関係性のほか、急いで対応すべき相談にも、管理者はその都度対応することもできている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スタッフ会などでレベルに合った学習が出来るよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	スタッフの個別の評価を行い賞与や給与に反映させている。労働時間は希望に沿えるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	県や市の交流会や勉強会に参加できる体制をとっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	相談に乗って頂く体制がある。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	研修会を行い理解できている。	/	/	○	スタッフ会の後に、全ての職員が参加した研修会を開催し、虐待や不適切なケアの防止などを学び、職員は理解をしている。また、身体拘束廃止委員会を開催し、職員間で話し合いをしている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、管理者は該当職員に指導をするほか、他の職員へも注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	スタッフ会だけでなく、日常的に話し合いの場を作っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に注意観察、声掛けし、必要時には面接などを行っている。時々ストレスチェックを行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束廃止委員会、スタッフ会等にて理解している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束廃止委員会、スタッフ会議にて話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	話し合い、理解を得るようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	理解でき相談に乗れる体制がある。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制が取れている。	◎	担当弁護士との連携体制が取れている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し周知し、時々勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	年2回の避難訓練、スタッフ会議などで身につけている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	スタッフ会議での報告、回覧、申し送りなどで再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	随時、及びスタッフ会時に検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し周知し、対応を検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに解決できるよう対応し、必要時には市町の相談、報告する体制を作っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに回答し、誠意を持って話し合い、納得していただけるよう努力している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会や電話などに個別に開ける場面を作るようにしている。相談窓口をお伝えしている。	◎	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族には、面会時や電話連絡時を活用して、職員は声をかけて、意見や要望の聞くよう努めている。また、職員の意見や要望は、管理者を中心に聞く仕組みづくりができており、職員は管理者を信頼しながら、何でも言い合える環境が整っている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	必要と思われるときには行う。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	管理者を通じて情報を得ている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的及び必要と思われるときに検討している。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	1年に1回取り組んでいる。	/	/	/	外部評価の自己評価は、管理者を中心に作成をしている。また、サービスの評価結果は、ユニット会の中で職員に報告を行い、目標達成に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議の参加メンバーや家族にも、評価結果を報告しているが、コロナ禍において、目標達成への取り組みの状況のモニターの協力までには至っていない。さらに、運営推進会議の会議録は、玄関に自由に閲覧できるように掲示をしている。コロナ禍の収束後には、家族や会議の参加メンバーに、目標達成の取り組み状況などのモニターの協力を呼びかけて意見をもらうなど、さらなるサービスの質の向上に活かすことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標を作成し、達成にむけて取り組んでいく。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	出来ていない。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	事業所として、各種防災マニュアルを整備し、職員に周知をしている。年2回以上、法定の避難訓練を実施している。コロナ禍において、消防署との連携のほか、地域住民との合同訓練は行われていない。地域住民との協力体制は築かれており、コロナ禍の収束後には、地域住民や運営推進会議の参加メンバー等の参加協力を得た合同訓練ができることも期待される。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の避難訓練時に行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	管理者が行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署からの指導や、電話などで協力をお願いしている。	△	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行えていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行えていない。	/	/	/	相談事業所ではないために、積極的な広報啓発までは行われていないが、実際に地域の高齢者等から相談が寄せられた場合には、快く適宜対応をしている。コロナ禍もあり、地域の活動やイベントにはほとんど協力することができていない。また、市行政や地域包括支援センターとして、認知症高齢者等の行方不明者の捜索訓練があり、協力もしている。さらに、市行政や地域包括支援センター等が主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	電話での問い合わせや、施設見学時に行っている。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行えていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	依頼なく、行えていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントには参加している。	/	/	○	